

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03081

研究課題名(和文)自治会保管文書の恒久的保全・活用体制構築に関する研究

研究課題名(英文) Research on the permanent system construction for preservation and utilization of residents' association documents

研究代表者

松下 正和 (Matsushita, Masakazu)

神戸大学・地域連携推進室・特命准教授

研究者番号：70379329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：地域住民とともに自治会文書の内容解読や伝来に関する研究を行い、防虫・虫干しや保存箱・保管場所の確保など地区住民でも可能な日常的管理方法の開発や、自治会文書を利用した講演会の実施、大字誌作成やまちづくり活動等に利用する等の活用事例を積み重ねることで、地域住民の自治会保管文書の存在や意義の重要性に関する意識涵養や、文書保存を自治会引き継ぎ事項に加え、自治会文書を活用し続ける文化運動にまで高めることで、自治会長や住民の代替わりにも影響のない、恒久的な保全と活用のためのシステムづくりに寄与することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自治会保管文書内において、近世村の庄屋文書や近代の戸長・区有文書、戦前の町内会文書などの残存状況を調査することで、村の運営方式の経年変化を追うことが可能となった点が学術的な成果である。また、本研究により、自治会文書が地域の履歴を示す記録であり、それを保全し活用することが地域コミュニティの存続や活性化と密接に関連することを、地域住民に示すことができた点が最大の社会的意義である。

研究成果の概要(英文)：By accumulating examples of preservation and utilization of residents' association documents, our research group raised awareness of the existence of residents' association documents, and promoted the establishment of standards for securing storage locations and disposal selection. This research contributed to the creation of a system for permanent maintenance and utilization.

研究分野：地域歴史資料学

キーワード：自治会文書 庄屋文書 区有文書 町内会文書 地域住民

1. 研究開始当初の背景

申請者は、阪神・淡路大震災以降、地震・津波・風水害被害に遭った古文書を中心とした文化財の保全活動や、旧家・自治会保管の近世・近代文書調査に従事してきた。その際、適切な保管・修復方法が周知されず、保管文書の内容やそれらの持つ重要性に関する認識不足のために大量に廃棄されていることが判明した。また、神戸大学在職時の地域連携事業において、兵庫県内某町内の自治会文書悉皆調査において、近世・近代文書の存在自体が過去に確認・活用され「有る」にも拘わらず「無い」と回答する区長が多い点、その存在を知っていても内容を知らない点が明らかとなった。さらには、公民館の建て替え、区長の代替わりなどで廃棄されるケースも確認してきた。

その一方で、古文書整理を地区住民主体で行った兵庫県丹波市春日町棚原地区や、財産管理組合の村絵図を地域住民に展示している同宝塚市山本地区のように、自治会保管文書の意識的な活用によって大切に保存される事例があることも判明した。また、H25～27の基盤研究(C)での研究「地域遺産を活用した古代郷域史研究手法の開発」で研究代表者として、郷域史研究を進めるにあたり、県内での地方文書が年々廃棄され、また過疎化地域では文書を維持管理できる人材もいなくなるという深刻な現状を目の当たりにし、自治会の中だけではなく市町や県といった行政の役割や、地域史研究団体の役割の重要性に改めて気づくこととなり、自治会保管文書の内容分析のみならず、保管の意義の地元住民への周知、恒久的保全・活用体制の具体的な方策とその研究が必要であると思に至った。

民間所在の古文書の調査や保管をめぐる研究史を振り返ると、1990年代以降、安藤正人氏らにより、記録史料群の構造的認識や、調査方法、目録論とISAD(G)など目録記述との関連についての実践が積み重ねられ、理論化も進められている(『記録史料学と現代』など)。2000年代に入ると国文学研究資料館史料館編の『アーカイブズの科学 上下』が出版され、近世・近代の組織体と記録との関係を説いた大藤修氏や丑木幸男氏の研究、地域史料調査論を展開した高橋実氏の研究らにより、文書・記録の整理・保存に関する研究は精緻化してきた。特に、その中の富善一敏氏による近世地方文書の史料群構造と大庄屋文書引き渡し作成に関する研究や、丑木幸男氏の戸長役場史料研究(『戸長役場史料の研究』)が本研究と関わって重要であり、時々の評価選別による現存事例の指摘が興味深い。また、白水智氏らによる長野県栄村での地域住民との地方文書保全活用に関する活動(『古文書はいかに歴史を描くのか』)や、三重県環境生活部文化振興課県史編さんグループによる県史編纂時の悉皆調査先の、5年ごとの所在確認調査等は、本科研の立案にとって大きな参考・先行事例となっている。よって、上記のアーカイブズ学研究や史料保全活動の視点を批判的に継承したい。しかしながら、兵庫県内の自治会保管の近世・近代文書の内在的研究またはそれらを利用した研究は、自治体史をはじめ枚挙に遑はないが、伝来論を含めた保全体制の研究や、それらの保管活用を意図した地元住民への古文書リテラシー教育の実践的な研究は、兵庫県内ではほとんどないと言ってよいだろう。阪神・淡路大震災以来地域の歴史資料の保全と活用に関する理論的・実践的研究を進め、地域歴史遺産に関する理論を提唱してきた奥村弘氏と、申請者らが研究を進めてきた「地域歴史資料学」の構築は緒に着いたばかりであり、地域社会における最小かつ身近なコミュニティと直結する自治会保管文書に焦点を当て研究を進めていく必要性を感じ、提唱してきた(松下正和「兵庫県丹波市内での民間所在史料の保存と活用について」国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ 地域持続に向けて』 勉誠出版、2017年)。

2. 研究の目的

自治会が保管する文書の中には、現在の自治会運営に関する文書の他にも、近世の庄屋文書をはじめ、近代から戦前・昭和の文書が保管されている事例が多いことは、従来の近世・近代地方文書研究・地域史研究や、自治体史編纂事業の中でも言及されてきた。しかしながら、現在の任意団体としての自治会運営の中では、過去の権利関係や会計文書以外に保管規定は特になく、時々自治会長の判断などで評価選別・廃棄されており、旧村単位の歴史を解明する上での障害となっている。自治会保管文書はその地区の存在証明・運営経緯そのものであり、それらの滅失は、研究者のみならず地区住民にとっても大きな損失と言える。よって、本研究の目的は、兵庫県内の自治会保管の非現用文書の種類とその伝来経緯・評価選別要因を分析することで滅失の危機から救い、日常的な保管体制の在り方を研究し、またその恒常的な保管に資するための活用手法を開発することである。

従来の研究面・活用面における問題点として、とりわけ自治会保管文書の内容分析が中心となっており、自治体史編纂時に所在把握はされているものの、その後のケアもほとんどの自治体でなされておらず、偶発的な残存も含め、評価・選別や廃棄・売却といった伝来経緯の研究が少ないこと、保管管理する地元住民自身が自治会保管文書の存在と内容に関する認識が不足し、そのために災害時の廃棄のみならず日常的にも保管場所不足からのみ評価選別されることになり、自治会保管文書自身と保全すること自体の意義に関する研究が不足していること、少子

高齢化社会に向けて、地域史料の保全の担い手が不足しており、旧村単位のみならず多様な団体や機関や、次世代も見越した担い手育成のための古文書リテラシー教育、実践的研究が少ないこと、が判明した。これらの点から、自治会保管文書の内容・伝来分析とともに、多様な活用方法によりそれらの意義を地元住民に訴える手法や、恒久的保管のための具体的方策を検討することを目的とした研究が必要との考えから、本研究をスタートさせた。

3. 研究の方法

兵庫県内の自治会文書を対象に、教育委員会や自治体史編纂室、資史料館、地域史研究団体などと連携しながら、自治会保管文書所在確認の効率的な調査方法の検討や、自治会文書の整理・内容と構造の分析を行い、文書伝来論の研究を行う。また文書を保管する地域住民にその担い手となってもらえるよう〈地域アーキビスト〉の養成や、共同調査方法を開発することにも重点を置き、恒久的な保全体制を研究する。さらには、これら諸団体と連携し、現地説明会や展示活動、ブックレット等の発行といった成果の還元を行い、自治会保管文書の活用の方策を地元住民や団体、文化財担当部局や小中学校などと一体になって検討する〈古文書リテラシー〉論の研究を行う。これらにより文書保全のための体制構築や人材養成を視野に入れた、市民を主体とする恒久的な自治会保管文書活用研究を進める。

4. 研究成果

(1) 伝来論研究

現在の自治会が保管する文書には、自治会運営に関する現用文書の他に、近世から明治・大正・昭和にかけての文書が多く含まれている。近世村から現代に至るまで様々な地方自治制度のもとで変遷を経てきた村と、その長のもとには様々な文書が作成・蓄積され、また時々の政策や規定に従いつつも、村役に就いた人々による評価・選別、廃棄・売却がなされてきた。また、保管についても、意識的な場合や偶然的要素が影響することもあり、また代々の区長による引継ぎ慣行があるところ、慣行が廃れ公民館・集会所で保管されているところ、区長が個人的に保管している場合や、逆に近世の村役をしていた旧家から現在の自治会や公民館に文書を預ける場合もある。このような文書群ごとの伝来経緯を分析した

具体的には、2017年度には、過去の区有文書伝来論の研究史整理や、『社会変容と民間アーカイブズ』（勉誠出版、2017年）をテキストに先行研究を検討した、学内での研究会成果を踏まえ、兵庫県をフィールドとして、兵庫県丹波市柏原町上小倉・新屋地区・春日町松森地区・市島町与戸地区、豊岡市日高町知見地区、姫路市田寺地区、神崎郡神河町中村・猪笹地区などの自治会保管文書の調査を行った。2018年度には、丹波市春日町棚原・松森、柏原町大新屋、市島町中竹田、豊岡市日高町知見・椒、神河町中村、姫路市田寺、神戸市平野、三木市・猪名川町内の区有文書・旧家文書の調査を行った。これらのうち、春日町棚原・松森地区などにおいて、地域住民とともに文書整理と目録作成を行い、恒久的な保管環境整備につとめた。

(2) 自治会保管文書保全研究

教育委員会や自治体史編纂室、資史料館、地域史研究団体などと連携しながら、自治会保管文書所在確認の効率的な調査方法の検討や、自治会文書の整理・内容と構造の分析を行い、文書伝来論の研究を行う。また文書を保管する地域住民にその担い手となってもらえるよう〈地域アーキビスト〉の養成や、共同調査方法を開発することにも重点を置くことで、当該研究を進めてきた。

具体的には、2017年度には、上記の田寺村文書・松森自治会文書・中村井上家文書など、2018年度には、丹波市春日町棚原・松森、柏原町大新屋、市島町中竹田、豊岡市日高町知見・椒、神河町中村、姫路市田寺、神戸市平野、三木市・猪名川町内の自治会・旧家所蔵文書など、自治会保管文書調査を地域住民とともに行うことで、史料群目録を作成するとともに、住民自身が保全の担い手となるための方法論を構築することができた。2019年度では、摂津地域において、地元郷土史研究団体「下新庄村・蒲田村郷土史研究会」メンバーとともに大阪市東淀川区・淀川区文書の調査や解説会をおこない、下新庄村文書については翻刻集を刊行することができた。丹波地域では、丹波市棚原区有文書の調査を行い、住民向けの歴史セミナーや親子教室を開催するなど、区有文書保管の意識啓発に努めた。他にも同市上小倉区有文書の調査も行った。また氷上郡内の文書を中心に「丹波古文書倶楽部」において地域住民に文書解説の方法を伝授するとともに、区有文書の保存について依頼、周知をした。播磨地域では、市川町屋形区有文書の調査を地元郷土史研究団体とともにを行い、整理法について指導した。また姫路市田寺村文書を用いて地域住民との共同勉強会「大塩古文書サロン」を開催し、ニュースレターを発行するなど成果に努めた結果、大塩地区住民の参加も増加してきた。但馬地域では、朝来市多々良木区と同区歴史研究会と連携し、「多々良木古文書展」や記念講演会を開催するなどして、区有文書の活用と保存についての意義に関して周知をはかった。このように地域住民と連携した調査方法の開発に重点を置いた結果、各地において成果が見られ普及のための準備を整えることが出来た。

(3) 自治会保管文書活用研究

上記の諸団体とも連携しながら、研究内容の現地説明会や資史料館・地区公民館などでの展示活動、一般向けブックレットや地域住民・学校向けパンフレットなどの発行といった成果の還元を行うとともに、自治会保管文書の活用の方策を地元住民や団体、文化財担当部局や小学校などと一体になって検討する機会を設ける。具体的には、崩し字の読解方法とともに文書の保管方法や活用方法をともに検討する「古文書リテラシー」論の研究を行った。また博物館・資史料館などでの展示方法の在り方を研究することによって、恒久的に保管に資するための仕組みづくりや人材養成を視野に入れた、恒久的な自治会保管文書活用研究を進めた。

具体的には、2017年には、史料の「お里帰り展」として松下所蔵の田寺村文書の内容に関する現地説明会を姫路市田寺地区において、また丹波市春日町松森自治会保管の文書群(松森区有文書・松森天満宮文書)の内容に関する現地説明会を丹波市松森地区において行うことができた。2018年度には、地域の郷土史研究会メンバーとの古文書輪読会、公民館における区有文書の調査報告会、将来の保管の担い手を意識して丹波市内小学校での村絵図を中心とした区有文書の説明会などを開催し、地元住民や自治体、郷土史研究会などと連携しながら、区有文書の内容分析を進め、まちづくりにおける保存と活用の意義について周知することができた。また近世・近代文書のみならず、平成の自治会文書までを射程に入れた、整理・保管体制のあり方についても地域住民と検討する機会をもった。2019年度には、朝来市多々良木地区での展示会や丹波市春日町棚原地区での講演会、地元住民の地域アーキビスト養成のための試行プログラムを「下新庄村・蒲田村郷土史研究会」「大塩古文書サロン」などのメンバーに対しておこなうことができた。

最終年度の2020年度では、コロナ禍の影響により、地元での活動を控えざるを得ないところがあったが、丹波市上小倉公民館蔵の自治会文書を分析・研究し小冊子を刊行し、姫路市大塩公民館で地域住民とともに市内の古文書を読む「古文書サロン」を開催し、その成果を報告書にまとめ、論文として公開し、市川町屋形公民館所蔵の自治会文書の内容を、郷土史研究会メンバーとともに研究した成果を、地区住民に向けてわかりやすく記したパンフレットを作成・配布するなど、広く社会へその研究成果を公開することが可能となった。

なお、以上四年間の研究代表者・分担者の研究成果については別記の論文・図書などを参照のこと。

以上の実践的研究と活動により、当初の目標であった、兵庫県内の自治会文書を対象に、教育委員会や自治体史編纂室、資史料館、地域史研究団体などと連携しながら、自治会保管文書所在確認の効率的な調査方法の検討や、自治会文書の整理・内容と構造の分析を行い、文書伝来論の研究を行うこと、また文書を保管する地域住民にその担い手となってもらえるよう「地域アーキビスト」を養成し、共同調査方法を開発すること、自治会や郷土史研究団体など地域の諸団体と連携し、現地説明会や展示活動、ブックレット等の発行を通じて、研究成果の還元を行い、自治会保管文書の活用の方策を地元住民や団体、文化財担当部局や小中学校などと一体になって検討する「古文書リテラシー」論を研究すること、がおおむね達成された。

これらの実践的な研究活動を通じて、文書保全のための体制構築や人材養成を視野に入れた、市民を主体とする恒久的恒久的な自治会保管文書の保全、活用体制の構築に資する研究を進めることが出来たと考える。最終年度もコロナ禍のため、十分に地域活動を展開できない面もあったが、科研費助成期間終了後も、感染症対策を施しつつ継続して地域住民や自治体と連携し、自治会保管文書の保全と活用のための実践を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松下正和	4. 巻 12
2. 論文標題 小特集にあたって（<小特集>襖・屏風下張り文書の保全と活用：住民参加型事例を中心に）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Link：地域・大学・文化：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報	6. 最初と最後の頁 72-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 室山京子	4. 巻 282
2. 論文標題 地域歴史資料を学び楽しむ「場づくり」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松下正和	4. 巻 179
2. 論文標題 亀山藩領の村々を描いた絵図	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広報たんば	6. 最初と最後の頁 18-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木村修二	4. 巻 5
2. 論文標題 戦前の口吉川・大島地区の記録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 市史研究みき	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村修二	4. 巻 11
2. 論文標題 村の年代記と災害 「御影村年代記」の紹介をかねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LINK【地域・大学・文化】	6. 最初と最後の頁 109-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室山京子	4. 巻 11
2. 論文標題 神戸大学大学院人文学研究科古文書室架蔵御影村文書について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 LINK【地域・大学・文化】	6. 最初と最後の頁 92-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 みんなで読む「丹波志」
3. 学会等名 氷上郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 学生の手紙にしたためられた明治の歴史 - 東京遊学中の息子から ふるさとに住まう父母への手紙 にみる 明治時代の学生生活史 -
3. 学会等名 令和2年度歴史講座（丹波市）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村修二
2. 発表標題 絵図からみる山南の歴史 「旗本織田氏知行所絵図」を中心に
3. 学会等名 丹波歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 ちょっと昔の中島の暮らし
3. 学会等名 成果展「～中島区文書整理から知る～中島の明治・大正・昭和の暮らし」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 地域の「たから」を掘り起こす - 地域歴史遺産を活用したまちづくり -
3. 学会等名 令和2年度神崎郡連合区長会研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 地図に「私たちの歴史」を描く
3. 学会等名 令和2年度提案型協働事業報告会「ふるさとマップを描く 昭和の記憶を残す」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 春日の村絵図について
3. 学会等名 令和元年度歴史講座 丹波の歴史文化を知る・つなぐ(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 「地域歴史遺産」の保全と活用 地域住民とともに
3. 学会等名 これからの華僑博物館 - 資料の収集と展示の刷新 -
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 棚原天満宮の歴史
3. 学会等名 棚原歴史セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 但馬地域に残る身近な歴史遺産 - 2004年台風23号の際の水濡れ古文書レスキューを通じて
3. 学会等名 第54回但馬歴史講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村修二
2. 発表標題 山南町谷川・常勝寺とその周辺の古文書
3. 学会等名 丹波古文書倶楽部フィールドワーク
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 古文書からのぞく多々良木の暮らし
3. 学会等名 「多々良木古文書展」記念講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 市島町域の縁起と伝承
3. 学会等名 連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 丹波市域の俳諧文化
3. 学会等名 連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下 正和
2. 発表標題 歴史文化を活かしたまちづくりー住民主体の地域調べ活動
3. 学会等名 兵庫県いなみ野学園
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下 正和
2. 発表標題 地域歴史遺産と地域史
3. 学会等名 姫路市生涯大学校
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下 正和
2. 発表標題 円通寺襖下張り文書はがしの作業方法・文書内容解読成果報告
3. 学会等名 氷上郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松下 正和
2. 発表標題 竹田村の歴史 - むかしの村絵図をながめてみよう
3. 学会等名 丹波市立竹田小学校（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村 修二
2. 発表標題 公家領の村 - 中竹田の古文書から -
3. 学会等名 歴楽TAKEDA (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 修二
2. 発表標題 史料にみる大島地区の近世・近代、大島区有文書歴史資料報告会～大島に伝わった歴史資料たち
3. 学会等名 三木市 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上 舞
2. 発表標題 地域歴史遺産を未来へつなぐ
3. 学会等名 『金浦の歩み』発刊記念シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 舞
2. 発表標題 「銀の馬車道」と生野の地域歴史遺産
3. 学会等名 大学COC + シンポジウム「日本遺産と地域歴史遺産」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上 舞
2. 発表標題 丹波市との連携事業
3. 学会等名 『ふるさと丹波の歴史を読む』刊行記念シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 室山京子・松下正和
2. 発表標題 「田寺村文書」のご紹介
3. 学会等名 安室公民館講座
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 室山京子
2. 発表標題 松森公民館の自治会文書について
3. 学会等名 松森自治会文書・松森天満神社文書調査発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上舞
2. 発表標題 松森区有文書のマンガン鉱試掘関係資料について
3. 学会等名 松森自治会文書・松森天満神社文書調査発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村修二
2. 発表標題 松森天満宮神社文書と近世の民俗芸能 - 「はー踊り」の歌本と風流太鼓踊り
3. 学会等名 松森自治会文書・松森天満宮神社文書調査発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下正和
2. 発表標題 松森天満宮神社の縁起 - 天満宮一代記と絵解き
3. 学会等名 松森自治会文書・松森天満宮神社文書調査発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 木村修二・松下正和	4. 発行年 2021年
2. 出版社 木村修二	5. 総ページ数 75
3. 書名 よみがえった上小倉の古文書	

1. 著者名 室山京子・松下正和	4. 発行年 2021年
2. 出版社 室山京子	5. 総ページ数 42
3. 書名 古文書サロン活動報告書 - 姫路市大塩公民館での活動を中心に	

1. 著者名 室山京子・井上舞	4. 発行年 2021年
2. 出版社 室山京子・井上舞	5. 総ページ数 4
3. 書名 屋形区長文書の魅力	

1. 著者名 松下正和	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学地域連携推進室	5. 総ページ数 53
3. 書名 摂津国西成郡下新庄村文書	

1. 著者名 室山京子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学大学院人文学研究科	5. 総ページ数 48
3. 書名 大橋家所蔵本庄松平家関係史料調査報告書	

1. 著者名 松下正和・泉田邦彦・天野真志・井上拓巳・西村慎太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 蕃山房	5. 総ページ数 206
3. 書名 大字誌 ふるさと請戸	

1. 著者名 室山京子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 神戸大学	5. 総ページ数 8
3. 書名 「田寺村文書」のご紹介	

1. 著者名 室山京子・井上舞	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神戸大学	5. 総ページ数 12
3. 書名 丹波市春日町松森自治会文書調査中間報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 修二 (Kimura Syuji) (10419476)	神戸大学・人文学研究科・特命講師 (14501)	
研究分担者	井上 舞 (Inoue Mai) (30623813)	神戸大学・人文学研究科・特命助教 (14501)	
研究分担者	室山 京子 (Muroyama Kyoko) (80794239)	岡山大学・社会文化科学研究科・客員研究員 (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------